平成 23 年度下期 e－AAC ワークショップ

「スモールワールドと新携帯機器の利活用」セミナーの概要

NPO 法人　電子自治体アドバイザークラブ
（ URL：http://eaac.sakura.ne.jp/）

第 1 回　講演会

■日時:　平成24年１月21日（土）、13:00～17:00　　　　　会場：奈良女子大学総合研究棟 N301
■基調講演: 「スモールワールドとソーシャルメディア」（奈良女子大学人間文化研究科　教授　城和貴氏）
【概要】
　スモールワールド現象（別名「世間は狭い」）とは，知り合いを芋づる式に辿っていけば驚くほど簡単に世界中の誰にでもコンタクトできるという仮説であり，1967 年にミルグラム行った実験で検証された．その 30 年後にはダンカン・ワッツが現代のスモールワールド実験を行い，スモールワールド性は自然もしくは人工のネットワークに現われうることを示した．これらの実証理論的背景から，個々を「緩やかな繋がり」で結ぶ構造が各方面で注目され，最近のソーシャルメディアの進展に繋がるものである．本講演では，スモールワールド現象の紹介を，具体例を用いて行い，それらがどのようにソーシャルメディアに利用されていったかを解説する．また，これらを用いた地域行政への提言を行う．

【城　和貴氏のプロフィール】
阪大・理（数）卒．日本 DEC，ATR 視聴覚機構研究所，クボタで勤務後，奈良先端大に社会人入学．学位取得後，奈良先端大・助手，和歌山大・講師・助教授を経て 1999 年より現職．専門は並列分散処理，人工知能，パターン認識，可視化等．博士（工学）．

■講演2: 「行政の利活用事例」～葛城市における新しい技術を活用したサービスの創出の実例～
（葛城市市長　山下和弥氏）
【概要】
　葛城市は積極的に新しい技術を導入することにより、市内外の方々に満足いただけるサービスの確立をめざしております。7 市町による住民情報システムの共同化により従来業務を見直すことで、トータルコストの削減と職員の負担軽減、住民サービスの満足度向上につなげることを目的とした「自治体クラウドの導入」、またスマートフォンを通じて見ることでガイドブックから観光地を葛城市キャラクターの「蓮花ちゃん」や吉本興業の芸人さんが画面に現れて解説する「スマートフォンにおける日本初の AR シス テムを活用したガイドブック連動型アプリケーションの製作」などが代表例としてあげられます。他にも教育環境の充実のため、市内小中学校すべての教室(特別教室含む)にデジタルテレビ及びパソコンを導入した映像配信設備の設置、教員 1 人に 1 台のパソコンを配布し教員の負担軽減や情報の共同利用を促進した「学校 ICT 環境整備事業」などがあり、今後も各分野において新しい技術の活用に努めてまいります。

【山下和弥氏のプロフィール】
昭和 63 年奈良県立橿原高等学校卒業、平成 5 年甲南大学経済学部卒業、平成 17 年第1回葛城市市議会議員選挙に出馬し、初当選、民生水道常任委員会委員、まちづくり特別委員会委員、予算特別委員会委員、決算特別委員会委員、平成 20 年都市産業常任委員会副委員長、行財政改革特別委員会委員、葛城市議会改革特別委員会委員、予算特別委員会委員、10 月第2回葛城市長選挙当選、葛城市長　就任

■講演3:「通信技術の進化とコミュニケーションの変化」
（株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ　関西支社ソリューションビジネス部　三木　修氏）
【概要】
通信の進化とともに人と人とのコミュニケーション方法やコミュニティの繋がり方はその様相を様々な形に変化させている。本講演では現代の社会において、スマートフォンの爆発的な広がりが我々のライフスタイルやビジネスにどのような影響を与えるのかについてお話いたします。

第２回　講演会

■日時:　平成24年2月4日（土）、13:00～17:00　会場:放送大学奈良学習センター　Z306講義室
■講演1:「関係性をデザインする」 ～共感・共有・“つながり”を紡ぐ社会ネットワークシステム～
（同志社大学理工学部情報システムデザイン学科　教授　下原　勝憲氏　）
【概要】
社会情報学では，ヒト・モノ・コトの連携・連動から成り立つシステムやコミュニケーションを対象に“関係性をいかにデザインするか”を考えます．私たち人間は，社会の制度や経済のしくみ，文化や宗教，価値観など様々な関係性のなかに生きています．社会情報学では，相互作用・つながり・文脈など関係性の視点からシステムを捉え，理解する研究を進めています．本講演では，心の豊かさや“つながり”を実感できる社会の実現に向けて，コミュニケーションとコミュニティを活性化する社会ネットワークシステムの研究を紹介します．
人々の日常的な社会活動におけるコミュニケーションやコミュニティに関わる行為が廻り巡って“つながり”を形成し，共感・共有・“つながり”感を自然と紡ぎだし，関係性の創発・成長・再生産を促進する仕組みづくりを目指しています．

【下原　勝憲氏のプロフィール】
1978 年九州大学大学院工学研究科修士課程修了．NTTコミュニケーション科学基礎研究所研究部長，国際電気通信基礎技術研究所（ATR）人間情報科学研究所長，ATR ネットワーク情報学研究所長を経て，2006 年 4 月より同志社大学工学部情報システムデザイン学科　教授（2008 年 4 月より理工学部に改組）．博士（工学）．研究分野は社会情報学，進化システムと人工生命，ゲノム情報学，ヒューマン・システム・インタラクションなど．

■講演2:「新携帯機器の最新情報」（シャープ株式会社　通信システム事業本部　松田　茂三氏）
【概要】
インターネットの活用がウェブエクスペリエンス＝ウェブの検索、閲覧による情報収集という個での利用から、Facebook に代表されるようソーシャルネットワークサービスという「人と人」、「人と社会」をつなぎ新たな価値を生み出すアクティブなコミュニケーション手段、知識共有スタイルとして世界中で爆発的に利用が拡大しています。
この生活スタイルを変革させる新しいサービスの推進起爆剤となったのは、「スマートフォンやタブレットに代表されるインターネット融合コミュニケーション端末」と「クラウドというインターネットサービス技術」の二つであることは確かでしょう。
11 年スマートフォンは全世界で約 5 億台、タブレットも 7 千万台が出荷されました。また個人向けネットサービスもマイクロソフトの Windows ベースから Apple の iOS や Googel の Android をベースへと大きくシフトしています。
今セミナーでは、この動向と、今後、個人や企業、地域社会生活にどんな変化とメリットをもたらすのかをお話しさせて頂きます。

■講演3:「KDDIが考えるソーシャルメディアとその利活用」
（株式会社 KDDi 研究所　アプリケーションプラットフォームグループ　土生　由希子氏、知能メディアグループ　中澤　昌美氏）
【概要】
ブログ、掲示板など個人が情報発信するメディアが急成長し、クチコミサイト、QAサイト、twitter や facebook などを総称して「ソーシャルメディア」と呼ばれています。本パートでは改めて「ソーシャルメディア」を定義するとともに、「ソーシャルメディア」の 1 つである twitter の解析技術を活用したデモを 2 件ご紹介します。1 件目は、twitter 上のコメントを解析し、番組の進行にあわせて TV の話題シーンを可視化する技術です。これにより、人々と共感しながらテレビを楽しむ新しい TV 視聴スタイルを実現します。2 件目は、投稿者のつぶやきを解析することで、投稿者のプロフィール（年齢、性別、職業、出身、趣味など）を自動推定する技術です。これにより、プロフィールごとにどのような意見を持っているかが分かります。これらのデモを通じて、「KDDIの考えるソーシャルメディア」をご提案する予定です。

【土生　由希子氏のプロフィール】
1996 年日本高速通信(株)（現 KDDI(株)）入社。
現在、(株)KDDI 研究所アプリケーションプラットフォームグループ在籍。
この間、国内ネットワークの線路設計・線路建設業務、
ITS に関する研究開発・技術開発、事業化前アプリケーション・サービスの
技術開発に従事。

【中澤　昌美氏のプロフィール】
2009 年 KDDI(株)入社。
現在、(株)KDDI 研究所知能メディアグループ在籍。
ソーシャルメディアとコンテンツの融合アプリケーションに関する研究開発に従事。

第3回　講演会

■日時:　平成24年2月　18日（土）、13:00～17:00　　　　　会場:奈良女子大学総合研究棟 N301
■講演1:「フェイスブックのビジネスの可能性と、テレワーク」（株式会社　ワイズスタッフ　田澤　由利氏）
【概要】
フェイスブックは世界で 7 億 7 千万人が利用する、世界最大のソーシャルネットワーク。実名主義、写真掲載は日本には合わないと言われていましたが、企業・大学を中心にキーパーソンの利用が進み、日本でもユーザーが 500 万人を超え、急激に利用者を増やしています。また、大手企業も次々とフェイスブックページを公開しています。
一方、テレワークとは、ICT を活用し、離れた(Tele)場所で仕事(Work)をする働き方。数年前から、国は 4 省（総務省・国交省・厚生労働省・経済産業省）をあげてその普及に取り組む中、震災後は、BCP（事業継続計画）や節電対策で注目を浴びています。夏以降、在宅勤務を導入する企業、また、在宅就業を望む人が急激に増えています。当講演では、奈良県の「就労困難者在宅就業支援事業」において、フェイスブックを使ったビジネスモデルを企画し、奈良県で在宅就業を希望する人のための仕事創出に従事する立場から、フェイスブックのビジネスの可能性と、そこから広がるテレワークについて、詳しくご紹介します。

【田澤　由利氏のプロフィール】
株式会社ワイズスタッフ、株式会社テレワークマネジメント代表取締役
奈良県生まれ。上智大卒。シャープ株式会社にて PC 関連業務に従事したが、結婚・出産により退職、フリーライターとして独立。北海道北見市で、1998 年にワイズスタッフを設立。2008 年(株)テレワークマネジメント設立。テレワーク(在宅勤務)導入による「企業の生産性向上」のコンサルティングを実施している。テレワークという柔軟な働き方で、働く人、企業、そして社会を変えるべく、日本におけるテレワークの啓蒙・普及活動、テレワークによる地域の活性化への貢献を目指す。

■講演2:「進化し続けるスマートフォンの現状と未来」～国内最新導入事例を一挙にご紹介～
（ソフトバンクモバイイル株式会社　ビジネス推進統括部　シニアエヴァンジェリスト　中山　五輪男氏）

【概要】

今現在、国内においては iPhone や iPad の企業導入が加速しており、数千台規模で導入する大手企業も増えてきております。また iPad の店舗や企業、学校、病院、自治体などへの導入も増えてきており、私達の生活は大きく変化しようとしています。そこで今回の講演では iPhone、iPad の各分野における最新の導入事例を映像やデモを交えながら詳しく紹介します。また日々進化し続けるスマートフォンの未来の姿についても紹介します。

【中山　五輪男氏のプロフィール】

1964年5月長野県伊那市生まれ。法政大学工学部電気電子工学科卒業、1987年日本DEC入社。10年間、ソフトウェア開発部門やマーケティング部門でのマネージャを歴任、1996年に日本SGIへ入社。その後、EMCジャパンを経て2001年ソフトバンクコマース(現在のソフトバンクBB)に入社。BB推進部の部長としてYahoo! BBのコンシューマ向けセキュリティサービス（BBセキュリティ）の開発やSaaSのエヴァンジェリストとして外部での講演活動などに従事。現在はソフトバンクモバイルのビジネス推進統括部にてシニアエヴァンジェリストとしてiPhoneビジネスの販売推進などを主に担当。iPhone　関連の書籍の執筆活動や複数のTV番組出演でのiPhone訴求など、iPhone　エヴァンジェリストとしての活動をしつつ、国内20以上の大学での特別講師も務めている。Twitterアカウントは「iwaonakayama」

【執筆した書籍】

共立出版「インターネットストリーミング」（2000年7月発売）リックテレコム「モバイルSaaS　スマートフォンの衝撃」（2009 年 3 月発売）

【座長】:　奈良女子大学　人間文化研究科　　城　和貴教授

【共催】:　・奈良女子大学
・特定非営利活動法人　電子自治体アドバイザークラブ（e-AAC）

【後援】:　・近畿総合通信局・近畿経済産業局　・奈良県　・奈良県市長会　・奈良県町村会
・奈良県中小企業支援センター

【協賛団体】:
・西日本電信電話株式会社奈良支店　・富士通株式会社
・シャープ株式会社　・　近鉄ケーブルネットワーク株式会社（KCN）
・特定非営利活動法人サイバー・キャンパス・コンソーシアム TIES（略称：NPO 法人　CCC-TIES）